

■協会貢献者13名を表彰／セ協

3月26日、セメント協会理事会は傘下の各委員会より推薦のあった、協会活動に参画しその事業の遂行に顕著な貢献を認められた4件13名に対し、セメント協会貢献者として表彰を行った。

貢献者表彰は、1999年に第1回表彰が行われ、今回の9回目までセメント各社および学界などから計43名が表彰されている。今回の表彰者と表彰内容は次の通り。

「セメント業界の安全衛生活動に関する貢献」（推薦委員会：安全衛生対策委員会）

表彰者：武井民雄氏（セーフティクリエイティブ研究会代表）

「環境自主行動計画（温暖化対策編）の行動目標達成にむけた協会活動への貢献」（推薦委員会：生産・



関根会長（前列右から2番目）木村専務理事（同3番目）と当日出席された表彰者



表彰式は理事会の席上で行われた

環境委員会)

表彰者：福島秀男氏（太平洋セメント株）、藤井敏道氏（三菱マテリアル株）、中尾正文氏（住友大阪セメント株）〔所属は生産・環境委員長代行就任時のもの〕

「震災調査及び耐震・防災調査報告書作成への貢献」（推薦委員会：技術委員会〔セメント系固化材技術専門委員会〕、開発・普及委員会〔セメント系固化材普及専門委員会〕）

表彰者：北誥昌樹氏（東京工業大学）、斎藤準護氏（太平洋セメント株）、根本佳則氏（日立セメント株）、沼田和彦氏（太平洋セメント株）、足立 正氏（住友大阪セメント株）

「コンクリート舗装推進への貢献」（推薦委員会：技術委員会〔舗装技術専門委員会〕、開発・普及委員会〔コンクリート普及専門委員会〕）

表彰者：小梁川 雅氏（東京農業大学）、西澤辰男氏（石川工業高等専門学校）、梶尾 聡氏（太平洋セメント株）、小林哲夫氏（住友大阪セメント株）

■セメントキルンの熱にびっくり／

大阪科学技術館・セメント工場親子見学会開催

4月3日、大阪科学技術館（大阪市西区）は春休みイベントの一環として「住友大阪セメント株赤穂工場親子見学会」を開催した。好評だった昨年に続く2回目の今回も同館と同館会員組織「サイエンス・メイト」から、多数の応募があり、抽選により選ばれた小学4～6年生の18組36名が参加した。

当日朝、桜満開の韮公園に隣接する大阪科学技術館前に集合、貸切バスに乗り込み出発。バス車中では、セメントとコンクリートの特徴や身の回りにあるコンクリート構造物の紹介、製造工程での廃棄物活用についての基礎知識を同行したセメント協会職員が説明した。続いて実際のコンクリート構造物として明石海峡大橋1Aアンカレイジを紹介、吊り橋構造とアンカレイジの役割をパネルを使って勉強し



タワーに登って説明を受ける子どもたち

た。そのあと立ち寄った明石海峡大橋ではアンカレ
イジの実物を目の当たりにし、あらためてその大き
さを感じたあと、赤穂工場に到着した。

工場玄関では、赤穂市の観光マスコットキャラク
ター『陣たくん』と工場スタッフが出迎えた。事務
所内の講堂では中川藤外志工場長による歓迎の挨拶
に続き、セメント製造工程と工場の概要を紹介した
DVDを鑑賞した。

昼食をはさみ、小野副工場長の指示で3班に分か
れ、それぞれについての説明者とともに工場内に出
発、途中から降りだした雨の中、海側に広がる第二
工場までバスで移動、高さ70mのNSPタワーからは
工場の全景や栈橋で作業する船舶を見学、地上に戻
るとロータリーキルンの熱を感じながら一人ひとり
が1450℃の窯内を目にし、用意されたクリンカーを



手作り陣たくん人形に彩色体験

手にした。さらに工場内の電力を賄う自家発電所
では概要の説明を受けたあと実際に動いているタービ
ン室に入り大音量を耳にした。

見学終了後、工場スタッフによる実験教室が行わ
れた。はじめに工場内の安全に関する火災報知設備
の原理を示した実験を見たあと、サーモグラフィな
ど熱管理を行う機器を体験。続いて種類の異なるセ
メントを練り比べ、その違いを見る体験や『陣たく
ん』の型枠に速硬セメントモルタルを流し込む人形
制作を見学、脱型して熱を持った陣たくんで水和反
応を学び、事前に用意された人形に各自彩色を施し
た。また、分析センターでは試薬を使った実験を体
験、全自動調合原料分析装置のロボットアームの動
きを見学した。

見学会の最後には、質疑応答が行われ、子どもた

ちや同伴した保護者から「廃棄物
はどのくらい使っているの？」
「セメント品質の違いは？」
「品質管理のサンプルの採り方は？」
「工場の全設備を買うといくらか
かりますか？」など担当者をうな
らせる場面もあったがそれぞれ明
瞭な回答に納得したところでバス
に乗車、再び工場スタッフと陣た
くんの見送りを受け、工場を後に
した。



赤穂市のキャラクター「陣たくん」と記念写真